



## (II) 三島村の交通

### ① 「フェリーみしま」にたよる島の交通

三島村は、海をへだてて本土からはなれたところにあるため、ほかの島や鹿児島市へ行き来するには、船が大切な交通機関きかんとなっています。これまでにどのような船が、どのように行き来していたのでしょうか。

年 代		船のうつり変わり	
明治～大正		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 決まった日に船が来ることはなかった。</li> <li>○ けがや病<small>ぎよせん</small>気をしたときなどの交通は、鹿児島市<small>まくらぎさき</small>や枕崎から来る漁船<small>ぎよせん</small>（ほかけ舟）にたよっていた。</li> </ul>	
昭和	8年 (1933年)	「十島丸」(150+) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 奄美大島や十島にも行くため、三島に来るのは月に1・2回だけだった。</li> <li>・ 「ろ」でこぐ「はしけ」を使っていた。</li> </ul>	
	16年 (1941年)	<small>かなと</small> 「金十丸」(580+) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 奄美大島と十島村(今の三島村を含む)間を運航した。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 昭和20年8月15日に太平洋戦争<small>たいへいようせんそう</small>が終わりましたが、ラジオもなく、船も来なかったので、島の人たちは11月に漁船が来るまで戦争が終わったことを知らなかったそうです。</li> <li>○ 北の3島(今の三島村)と南の7島(今の十島村)は同じ大島郡十島村でしたが、昭和21年から、南の7島はアメリカ軍が治<small>おさ</small>めることになったため、金十丸、十島丸は北3島には来なくなり、島の人たちはとても困りました。</li> </ul>	



昭和	21年 (1946年)	<p>「三島丸」(33+)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10月から機帆船<small>きはんせん</small>（帆とエンジンの両方がある船）が運航した。</li> <li>・ 7～10日おきに鹿児島市と三島<small>むす</small>を結んだ。</li> </ul>	
	27年 (1952年)	<p>「三幸丸」(301+)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月5・6回運航した。鹿児島から三島<small>みゆき</small>を通して屋久島、奄美大島にも向かう船だった。</li> <li>・ 午前9時に鹿児島を出て、夜7時に片泊に着いた。</li> </ul>	
	30年 (1955年)	<p>「第2三幸丸」(102+)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 村内専用船<small>せんようせん</small>として、月6回運航、乗客は65人まで乗れた。</li> <li>・ 午前9時に鹿児島を出て、夜7時に片泊に着いた。</li> </ul>	
	34年 (1959年)	<p>「興南丸」(720+)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鹿児島<small>なせ</small>、名瀬<small>とくの</small>、徳之島、沖永良部島<small>おきのえらぶじま</small>、与論<small>よろん</small>にも向かう船だった。</li> </ul>	
	48年 (1973年)	<p>「みしま」(445+)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月8回運航、乗客は183人まで乗れた。</li> <li>・ 午前9時に鹿児島を出て、夕方5時に片泊に着いた。</li> </ul>	
		<p>※ 「みしま」の港への接岸開始<small>せつがん</small>（49年硫黄島港、50年大里港、51年竹島港、55年片泊港）</p>	

	<p>61年 (1986年)</p>	<p><b>新貨客船「みしま」(776+)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月11回運航、250人まで乗客が乗れた。</li> <li>・ 鹿児島市から日帰りもできるようになった(11回中3回)。</li> <li>・ 港が整備されたことで、沖で待つ本船との「はしけ」を使っ<small>て</small>の通船作業をする必要がなくなった。</li> <li>・ バラ積みだった荷物はコンテナ輸送ができるようになり、短い時間で荷物の積み下ろしをしたり、自分の荷物を直接受け取ったりすることができるようになった。</li> </ul>	
<p>平成</p>	<p>13年 (2001年)</p>	<p><b>フェリー「みしま」(1196+)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 週3回運航、乗客は250人まで乗れた。</li> <li>・ 午前9時30分に鹿児島市を出て午後3時すぎには片泊<small>に</small>着くようになった。</li> <li>・ 車を直接乗せられるようになった。</li> <li>・ 大きな荷物をクレーンではなく、車やフォークリフトで積み下ろしできるようになった。</li> <li>・ 平成28年に週4回になった。</li> </ul>	
<p>令和</p>	<p>2年 (2020年)</p>	<p><b>新船「フェリーみしま」(1859+)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 週4回運航、乗客は250人まで乗れる。</li> <li>・ 大型エレベーターや横揺れを少なくする装置、魚用の水槽、冷蔵施設などがついた。</li> </ul>	



「+ (トン)」は、船の大きさを表します。  
「〇〇+」の〇〇の数が大きくなるほど、船の大きさが大きくなります。

## ② 人の行き来

「フェリーみしま」は、三島村にとっては欠かせない大切な交通機関<sup>きかん</sup>ですが、フェリー<sup>いがい</sup>以外の交通機関として、飛行機やヘリコプターがあります。ヘリポートは、竹島、大里、片泊に、飛行場は硫黄島にあります。急な病気や大けがをした人を運んでもらうための施設<sup>しせつ</sup>です。また、ヘリコプターや飛行機を使って島に来たり、鹿児島に行ったりする人もいます。

### 【船以外の交通機関】

年	ことがら	場所
昭和 49 年	ヘリポート <sup>けん</sup> 建せつ	大里
昭和 50 年	ヘリポート建せつ	片泊
昭和 51 年	ヘリポート建せつ	竹島
昭和 53 年	ヘリポート建せつ	片泊
平成 6 年	硫黄島飛行場開設	硫黄島
平成 23 年	ドクターヘリ運航開始	全島
平成 27 年	定期飛行機便就航開始	硫黄島

ヘリポートや飛行場は、それぞれの島のどこにあるかな？



【鹿児島空港と硫黄島間を約 50 分で結ぶ飛行機】



【急な病気などの人を運ぶドクターヘリ】

最近<sup>さいきん</sup>、三島村の美しい自然をもとめて、観光<sup>かんこう</sup>や魚つりにおとずれる人が多くなりました。令和 4 年には、県立自然公園<sup>しぜん</sup>に指定されたことから、これからはもっとたくさんの人たちがおとずれることが期待<sup>きたい</sup>されます。

### ③ 品物の動き

わたしたちの住む三島村は、まわりを海でかこまれています。そのため、生活に必要な品物は、ほとんどが「フェリーみしま」で鹿児島市から運ばれてきます。

野菜や肉、米、卵などの食料品、牛乳、ジュースなどの飲み物、自動車、ガソリン、ガス、衣類、木材、電気製品などの生活用品、そのほか、郵便物、学校で使われるいろいろな道具、給食の食材など、多くの物がそれぞれの島へ運ばれてきます。また、それぞれの島からは、牛、鮮魚、たけのこ、しいたけなどが鹿児島市へ送られます。

そのため、フェリーみしまが入港すると、どの島でも品物をフェリーから下ろしたりのせたりする人や、品物を取りに来る人が集まって、港はとてにぎやかになります。



【多くの人でにぎわう港】

## (12) まとめ、ひろげるページ

三島村の仕事カードを作ってしょうかいしよう。

- ① テーマを決める。  
(例)・ 三島村の農家の仕事について  
・ 商品を売る人びとの仕事について
- ② 調べたことをテーマにそってまとめる。  
・ 分かったこと、考えたことをまとめる。
- ③ まとめたことを発表し合って、感想を書く。  
・ 友だちの発表を聞いて考えたことを書く。  
・ 自分の発表に対する友だちからの意見について考えたことを書く。